

第335回山口西田読書会（2023年7月29日開催分）の Protokol

大藤 渉

1. テキスト：「場所」「五」の第1段落275頁11行目から同段落276頁11行目まで

2. キーワードないしキーセンテンス

「意識作用が純粹作用と考へられるのも我々の意識と考へられるものがかかる矛盾の統一の場所なるが故である。」(276, 4-5)

3. 考察及び問い

西田は、「われわれの意識と考へられるもの」が「矛盾の統一の場所」なるが故に、「意識作用が純粹作用と考へられる」という。しかし、ただ「生きる」、ただ「歩く」といった、その都度の「述語的なるもの」において矛盾はないように思われる。こうした「述語的なるもの」の中で、西田は、「意識する意識」に焦点を当てることによって、映されたものを対立させ、自ら矛盾をつくりだしているのではないか。「意識」に映されることによって、つくりだされた矛盾的關係が、矛盾の統一の場所なる「意識」におかれているとはどういうことだろうか。